

第 1 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-8315
住 所 東京都中央区京橋一丁目15番1号
氏 名 味の素株式会社
取締役社長 西井 孝明 印
(代理人) 理事川崎事業所長 伊藤 善計
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 9 条第 1 項 (同条第 4 項において読み替えて準用する場合を含む。) の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区鈴木町1-1		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	醤油食用アミノ酸製造・うま味調味料製造・その他調味料製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		62,406 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	総務・エリア管理部 安全・環境グループ
		所在地	川崎市川崎区鈴木町1-1
	電話番号		0 4 4 - 2 3 3 - 0 3 2 2
	F A X 番号		0 4 4 - 2 4 5 - 1 5 3 8
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	平成28年度 ～ 平成30年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取り組みについてはホームページにて公表しています。 http://www.ajinomoto.com/jp/activity/environment/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

【全社基本方針】

健やかないのちの営みのために人類の基本課題である「地球持続性」「食資源」解決のために事業を通じて貢献する。

1. (依存と影響の把握) 地球環境・社会の状況と事業活動との関係性を把握・評価します。
2. (負荷の極小化) 環境負荷の極小化を追求します。資源の利用効率の最大化を追求し、生態系が保全される調達に努めます。
3. (価値提供) 自然共生型・低炭素型・資源循環型へ社会変革を目指し、人と地球のいのちに貢献する商品・サービス・技術・システムの提供を推進します。
4. (協働) サプライチェーン上の関係者に事業活動を通じて働きかけます。
5. (情報公開) 計画・実績を定期的に報告します。
6. (マネジメントシステム) EMSを活用し、他のマネジメントシステムと有機的に連携させ、継続的に改善します。

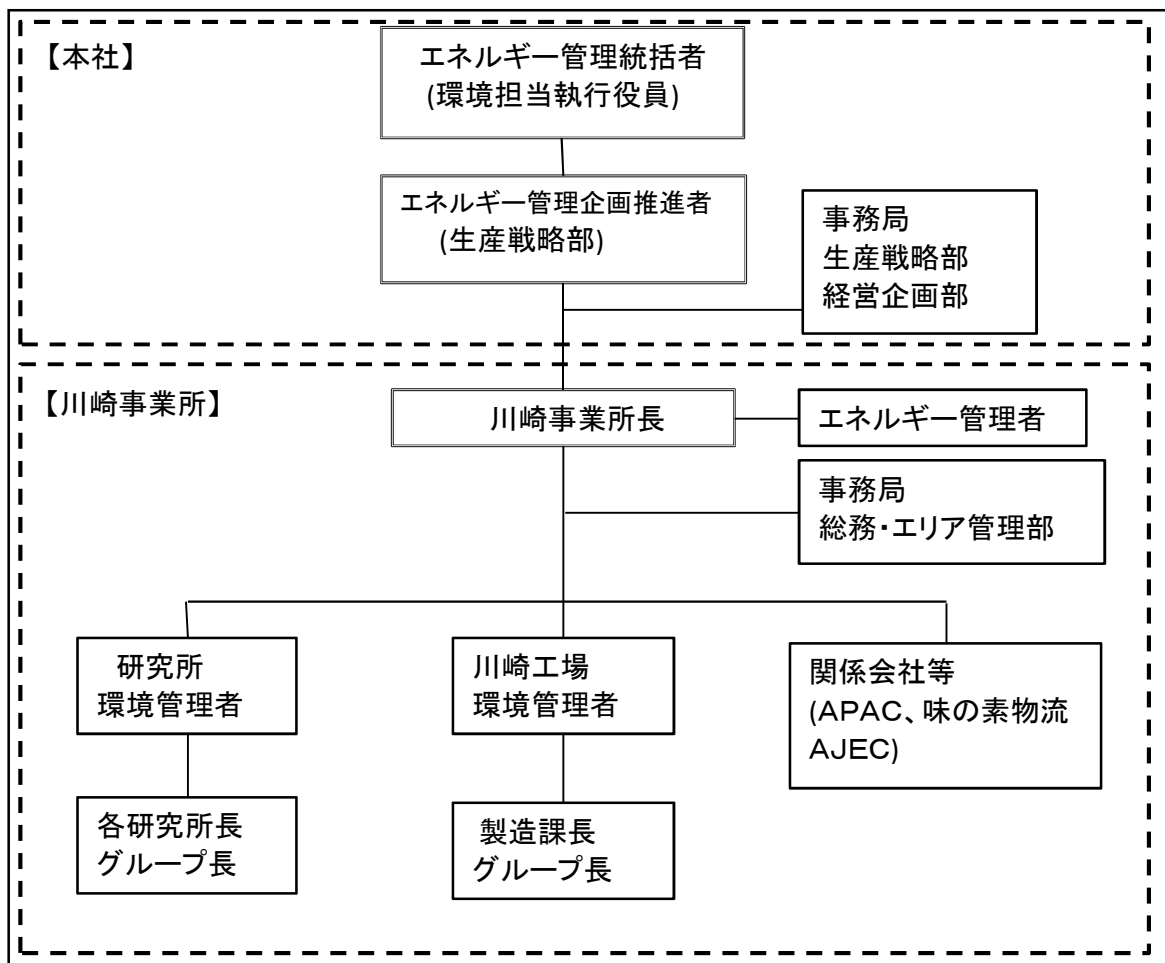
●味の素グループゼロエミッション計画を作成し取組中

【川崎事業所】

味の素グループゼロエミッション計画にそって事業所目標を設定し取り組む

- ・ISO14001をベースとしたマネジメントシステム運用の定着
(ISO14001 認証登録日2001年3月)

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基 準 年 度	平成 2 7	目 標 年 度	平成 3 0 年度
基 準 排 出 量	(実) 89,446 (調) 0 t-CO ₂	目 標 排 出 量	(実) 86,763 t-CO ₂
削 減 率	(実) 3.0 %	削 減 量	(実) 2,683 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原 単 位 の 活 動 量	生産数量	単 位	tCO2/千ト
基 準 年 度 の 値	918.0	目 標 年 度 の 値	890.5
削 減 率	3.0 %		
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

温室効果ガスの排出量削減を図るため、スマートエネルギーの取組みにて排出量を年 1 % 以上削減することを前提に目標を設定した。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

<味の素グループで設定した2014/2016年度ゼロエミ計画>

(目標)

- 1) 生産系事業場
グループ全体
CO₂排出量原単位 2005年度比 35%削減
国内生産系事業所
CO₂総排出量 2005年度比 8%削減

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)	○生産設備のエネルギー管理 エネルギー使用状況の管理、分析結果に基づき生産工程の改善を行う。 ポンプ、ファン、コンプレッサー等の負荷に応じた調整を行う。 ○事務所等の空気調和の管理 政府の推奨する冷暖房温度設定を基に空気調和設備の温度管理を行う。 ○照明設備の運用管理 過剰又は不要な点灯を防止し、ランプ交換時期には節電型照明への交換を標準化する。 ○熱使用設備の運用管理 蒸気トラップ等・蒸気配管等の熱使用設備の定期的な点検・保守を強化する。
自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置 (第 3 号該当者等)	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

バイオマス燃料の供給を継続する

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

省エネルギー関連の設備投資については、基準年度以前から積極的な取り組みを行っている。
具体的には、これまで下記のような取り組みを実施している。

○生産設備のエネルギー管理

2 台同時に稼働しているポンプを 1 台運転に変更した。

自動洗浄時間の短縮と乾燥時間の短縮を行った。

○事務所等の空気調和の管理

冷暖房温度（冷房は 28℃、暖房は 20℃）を目標に居室の冷暖房温度を徹底した。

指定フロンを使用した空調機 11 台を代替フロンを使用した省エネ型の空調機に更新した。

○照明設備の運用管理

蛍光灯交換時期に合わせた節電型蛍光灯への交換実施。

【CO₂排出量実績】

2012年度 91.8千ト

2013年度 88.5

2014年度 87.7

2015年度 85.4

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

○低CO₂川崎ブランド認定商品

製品名：飼料用アミノ酸「リジン」 CO₂削減量 約24万 t /年

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

1. グリーン購入の推進を行う。
森林生態系破壊リスクを考慮した紙資材の調達
2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を図る。
3. 廃棄物の有効利用を促進する。
4. 他の者に対する環境負荷低減の取り組み要請
運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施を要請する。
5. 植物性残渣の活用
製造工程で発生する植物性残渣をバイオマス発電燃料として供給を継続する。

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	89,446	t-CO ₂
(調)	0	

イ 第 3 号該当者等

(実)	t-CO ₂
(調)	

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
味の素(株)川崎事業所	川崎市川崎区鈴木町 1-1	0949	その他調味料製造	89,446 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--